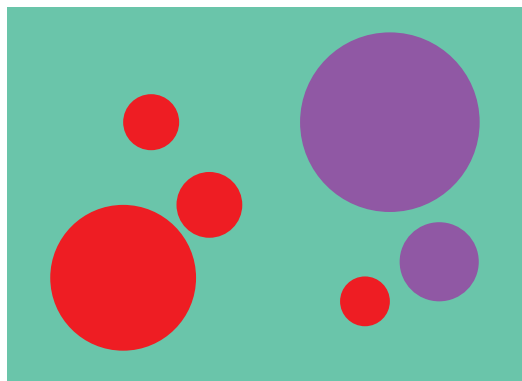


配色について

色の組み合わせで伝えたいイメージは変わる。

同じ色の組み合わせでも色の使用する大きさ幅でイメージは変わる。

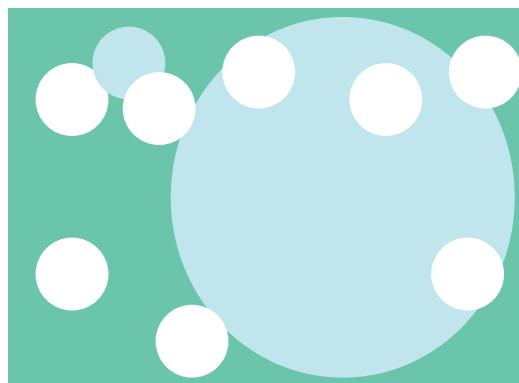
相手にどのようなイメージを伝えたいかをよく考えて色を使いこなそう。



↑ ↓ 同じ色でも使用する色の面積でイメージは違う

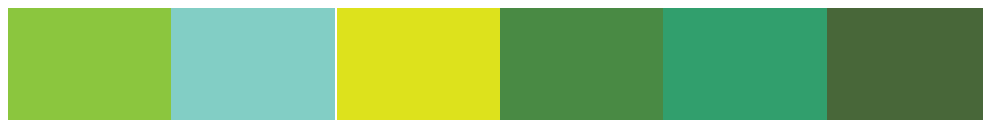


↑ 同系色でまとめるときれいが、見づらい部分もできる。



← ↑ 地色が同じでも使う色の組み合わせでイメージは変わる。

例として黄緑をベースに使う色を考えて見よう。



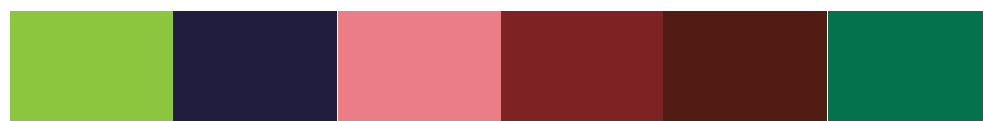
同系色類似色相でまとめる。落ち着いたイメージを伝えやすい。



同系色同一色相、明るさの幅を持たせている。同じく、落ち着いたイメージを伝えやすい



補色を入れてみる。補色でもやわらかい合わせになるよう、明るさを高くし色相の幅を持たせた。



補色も含め色相の幅を持たせさらに明暗に差を付けている。はっきりさせたい部分などを出しやすい。

類似と対比を上手く配置しよう。

類似はイメージの方向をまとめやすい。

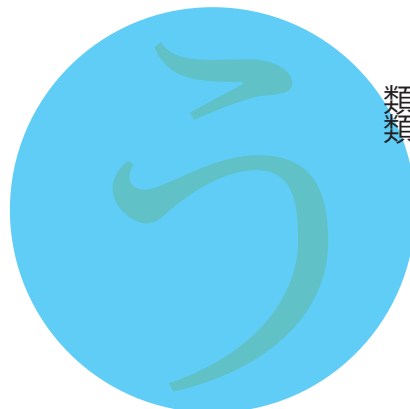
対比は、はっきりさせたい部分に使ってみよう。

明暗対比の例



白文字にする
→明暗の差を付けて境目が見やすい。

類似色相
類似明度



色合いを類似色相で合わせまとまりを出したが明るさが同じで境目が見づらい



色相對比（補色関係）

補色関係の色を利用すると境目がはっきりする。
さらに地色を明るくして明暗も差を付けている



彩度対比

同じ赤系の色を使い文字の色を彩度を高くし地色を彩度を落とした対比。
同時に明暗の対比も起きている。

「和歌の美しいイメージを平面構成しよう」の課題では、

- ・モチーフ（植物や風景の一部の物）の色に合わせて使う色合いを考える。
- ・季節に合わせた色合いを考える。
- ・和歌の持つ雰囲気（静かな、賑やかな、冷たいなど）で色合いを考える。

と、いいですね。

写実的に描く人はモチーフの色を大切にされた方が上手くいきやすいかな。

構成のモチーフの配置に大きく影響するので、決めた色合いをどこに使うか考えよう。

面積に差を付ける。

- ・大きく広く使う色
- ・細かく色数を使うところ
- ・アクセントになる対比を持ってくる部分。

ここについては、モチーフのデザインが決定し、配置を考えながら決めていきましょう。

